

都市再生整備計画 事後評価シート  
若狭和田地区(2期)

令和6年3月

福井県高浜町

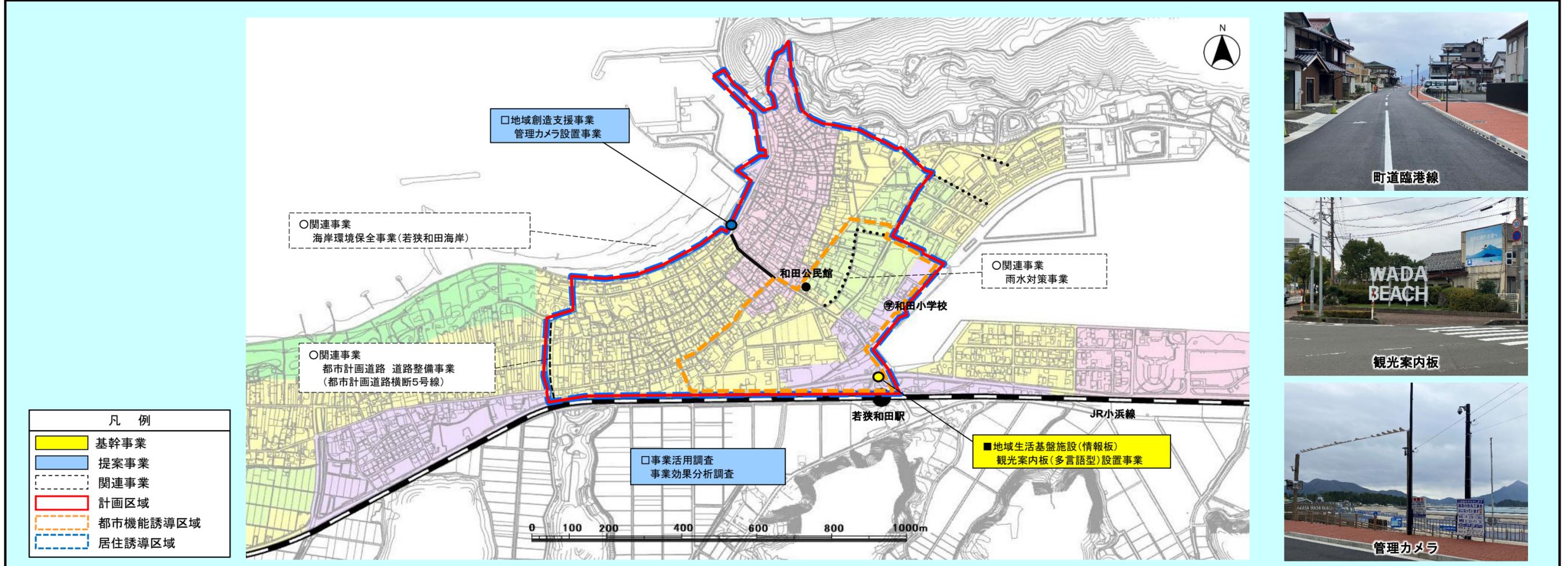
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県		市町村名	高浜町		地区名	若狭和田地区(2期)			面積	52ha		
交付期間	平成31年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	297.5百万円	国費率	0.400				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業 提案事業		事業名 道路(町道臨港線整備事業)、地域生活基盤施設(和田海浜広場整備事業、観光案内版(多言語型)設置事業) 地域創造支援事業(管理カメラ設置事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)								
	当初計画から削除した事業		基幹事業 提案事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業 提案事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	交付期間の変更		当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		-			
	変更		変更	-		-		-		-			
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	地区内人口 ※下段の括弧書きは、都市再生整備計画に記載した国勢調査ベースの値 ※上段は、事後評価にあたって住民基本台帳ベースに便宜的に換算した値		人	1,427 (1,344)	H28	1,388 (1,308)	R5	1,280	×	あり	●	地区内の主要な生活・防災道路である町道臨港線の改良や横断5号線の整備により、和田地区の中心部をループ状で連絡する道路ネットワークが形成され、大型車両等の通行の円滑化や歩行者の安全性の確保、無電柱化に伴う大規模地震時の電柱の倒壊防止など、まちなかの住環境の安心安全性や利便性等が向上することを期待した。 しかし、町道臨港線の改良は事後評価時点で工事完成に至らず、まちなか居住の促進に繋がらなかったことが目標未達成の主な要因と考えられる。 また、雨水対策事業が工事完成に至らなかったことも要因の一つと考えられる。	令和6年4月
指標2	観光客数		人	140,900	H30	148,800	R5	119,505	×	あり	●	ブルーフラッグの認証を取得し、国内外から注目を集める若狭和田海水浴場等を活かした賑わい創出を図ったが、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響による外出を控える意識が未だ残っていることが目標未達成の主な要因と考えられる。 また、若狭和田海水浴場への主要な観光道路である町道臨港線の改良が事後評価時点で工事完成に至らず、にぎわいの活性化につながらなかったことも要因の一つと考えられる。 一方で、観光案内板の設置や海岸環境保全事業により、世界に誇る美しい海岸環境が維持されるなど、まちなかの魅力や価値は高まっている。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	-												
4)定性的な効果発現状況	-												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況									今後の対応方針等
	モニタリング		なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス		なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築		なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

## 様式2-2 地区の概要

若狭和田地区(2期)(福井県高浜町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 ブルーフラッグに代表される豊かな地域資源を活かした生活文化拠点の形成	地区内人口	単位: 人	1,427	H29	1,388	R5	1,280	R5
目標1 安心・安全な居住環境の整備によるまちなか居住の推進 目標2 観光客への対応と地域資源を活かした賑わいや交流の創出	観光客数	単位: 人	140,900	H30	148,800	R5	119,505	R5



まちの課題の変化	<p>◆和田地区におけるまちなか居住の促進と活力の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の主要な生活・防災道路である町道臨港線の改良や横断5号線の整備により、和田地区の中心部をループ状で連絡する道路ネットワークや、まちなかの居住環境が改善された。</li> <li>・引き続き、快適で安全安心な居住環境の整えていくとともに、新たな課題として、新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の生活様式や働き方などに変化が生じている中で、地域住民等の日常的な交流を支える都市基盤を充実させていくことが望まれる。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆空き家等対策と連携した密集市街地対策の推進 ⇒更に安心・安全な居住環境の形成に向けて、狭隘道路の解消や歩行者・自動車が快適に移動できる道路空間整備を推進する。まちなかで増加している空き家・空き地対策と連携を図る。</li> <li>◆子育て環境の充実 ⇒子育て世代がまちなかで安心して暮らせるよう、保育などの子育てサービスを充実する。</li> <li>◆地域住民等の日常生活・交流を支える都市基盤の充実 ⇒まちなかの住環境に潤いを与えるとともに、地域住民等の日常的な休息や交流の場として活用できる公園整備を進める。</li> <li>◆地域資源を活かした観光振興 ⇒ブルーフラッグの認証を受けた美しい海岸環境や旧丹後街道沿いを中心に残る伝統的な町並みなどを活かし、まちなかの魅力や活力を創出する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道臨港線整備事業	253.5	170m	253.5	170m	なし			●
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	和田海浜広場整備事業	12.0	210㎡	-	-	事業の削除(予定)			
地域生活基盤施設	観光案内版(多言語型)設置事業	20.0	6箇所	20.0	6箇所	なし		●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	管理カメラ設置事業	8.0	管理カメラの設置 5基	8.0	管理カメラの設置 5基	なし		●	
事業活用調査	事業効果分析調査	3.0	調査委託	3.0	調査委託	なし			●
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
都市計画道路	道路整備事業	都市計画道路横断5号線	325	325	平成28年度 ~ 令和2年度	平成28年度 ~ 令和2年度	完成	
雨水対策事業		1・2号排水路	1,328	1,328	平成27年度 ~ 令和5年度	平成27年度 ~ 令和5年度	未完成	
海岸環境保全事業		若狭和田海岸	15	15	令和元年度 ~ 令和5年度	令和元年度 ~ 令和5年度	完成	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	数値	○ △ ×	あり	なし		
指標1	地区内人口	人	-		1,427 (1,344)	H29	1,388 (1,308)	R5	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	●	1,280	事後評価	×		●
指標2	観光客数	人	-		140,900	H30	148,800	R5	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	●	119,505	事後評価	×		●
指標3	-	-	-		-		-		モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定		-	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価値が目標値を下回り、年平均の人口減少率を比較すると、計画期間前(H27.3～H31.3)よりも計画期間内(R2.3～R6.3)の人口減少率が高く、改善が見られないことから、目標達成度は「×」とする。</li> <li>これは、町道臨港線の改良が事後評価時点で工事完成に至っておらず、まちなかの居住の促進に繋がらなかったことが主な要因と考えられる。また、雨水対策事業が工事完成に至らなかったことも目標未達成の要因の一つと考えられる。</li> <li>なお、町道臨港線の改良は今年度(令和5年度)中に完了する見込みとなっているが、1年以内に地区内の居住人口の増加に結びつくとは考えにくいので、1年以内の達成見込みは「なし」とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本整備計画を作成した当初は、国勢調査の人口データを用いて評価を行うことを想定し、町丁目毎の住民基本台帳人口を国勢調査の人口に換算した上で従前値、目標値を設定していた(下段の括弧書き内の値)。</li> <li>一方、事後評価にあたっては、町丁目毎の住民基本台帳人口データを用いて評価することとなり、不要な補正を除いた上で評価を行うべきと判断し、従前値、目標値を住民基本台帳人口に割り戻して評価を行った(上段の値)。</li> </ul>
指標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価値が従前値、目標値を下回るため、目標達成度は「×」とする。</li> <li>これは、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出控えの動きが未だ残っていることが目標未達成の主な要因と考えられる。</li> <li>令和2年以降の観光客数の推移は回復傾向にあるが、令和2年から令和5年までの傾向を踏まえた令和6年度の観光客数(推計値)は132,715人となり、目標値(148,800人)を下回るため、1年以内の達成見込みは「なし」とする。</li> </ul>	-
指標3	-	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1	-	-					モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2	-	-					モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3	-	-					モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課への意見照会	建設整備課 産業振興課	令和6年1月	建設整備課 (都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		—		—		—	
指標名		—		—		—	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:町道臨港線整備事業		—		—		—
	地域生活基盤施設(情報板):観光案内版(多言語型)設置事						
提案事業	地域創造支援事業:管理カメラ設置事業						
	事業活用調査:事業効果分析調査						
関連事業	都市計画道路 道路整備事業 (都)横断5号線						
	雨水対策事業(1・2号排水路)						
	海岸環境保全事業						

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	—	—	—
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			—		
指標名		地区内人口			観光客数			—		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路:町道臨港線整備事業	×	地区内の主要な生活・防災道路である町道臨港線の改良や横断5号線の整備により、和田地区の中心部をループ状で連絡する道路ネットワークが形成され、大型車両等の通行の円滑化や歩行者の安全性の確保、無電柱化に伴う大規模地震時の電柱の倒壊防止など、まちなかの住環境の安心安全性や利便性等が向上することを期待した。 しかし、町道臨港線の改良は事後評価時点で工事完成に至らず、まちなか居住の促進に繋がらなかったことが目標未達成の主な要因と考えられる。 また、雨水対策事業が工事完成に至らなかったことも要因の一つと考えられる。	I	×	ブルーフラッグの認証を取得し、国内外から注目を集める若狭和田海水浴場等を活かした賑わい創出を図ったが、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響による外出を控える意識が未だ残っていることが目標未達成の主な要因と考えられる。 また、若狭和田海水浴場への主要な観光道路である町道臨港線の改良が事後評価時点で工事完成に至らず、にぎわいの活性化につながらなかったことも要因の一つと考えられる。 一方で、観光案内板の設置や海岸環境保全事業により、世界に誇る美しい海岸環境が維持されるなど、まちなかの魅力や価値は高まっている。	III	—	—	
	地域生活基盤施設(情報板):観光案内版(多言語型)設置事業	-			×					
提案事業	地域創造支援事業:管理カメラ設置事業	×			×					
	事業活用調査:事業効果分析調査	-			-					
関連事業	都市計画道路 道路整備事業 (都)横断5号線	×			-					
	雨水対策事業(1・2号排水路)	×			-					
	海岸環境保全事業	-	×							

※目標未達成への影響度  
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	まちなか居住の推進に向けて、引き続き、安全・安心で快適な居住環境の整備に取り組む。	新型コロナウイルス感染症の拡大により停滞した地域経済の動向を注視しながら、引き続き、地域資源を活かした賑わいや交流の創出に取り組む。
------------------	---	--

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 官民連携による取組状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
—	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課への意見照会	建設整備課 産業振興課	令和6年1月	建設整備課 (都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
安心・安全な居住環境の整備 によるまちなか居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の主要な生活・防災道路である町道臨港線の改良により、大型車両等の通行の円滑化や歩行者の安全性が確保された。</li> <li>また、横断5号線が整備されたことで、町道臨港線や国道27号線等を結んだループ状の道路ネットワークが形成された。</li> <li>管理カメラが設置され、まちなかの安全性が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかの人口減少に歯止めがかかっていないため、まちなか居住の推進に向けて、安全性、利便性、快適性の高い居住環境の形成に取り組む必要がある。</li> <li>また、地域コミュニティや活力の低下も危惧されるため、地域住民等の日常的な交流を支える環境整備が必要である。</li> </ul>	—
観光客への対応と地域資源を活かした賑わいや交流の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>若狭和田海水浴場への主要な観光道路である町道臨港線の改良のほか、観光案内板や管理カメラの設置、海岸環境保全事業により、国内外からの観光客等が安全かつ快適に回遊・滞留するために必要な環境の一部が整った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客数(海水浴客数)が、コロナ禍以前の状況まで回復しておらず、引き続き、ブルーフラッグなどの地域資源を活かした観光振興に取り組む必要がある</li> </ul>	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	空き家等対策と連携した密集市街地対策の推進	・更に安心・安全な居住環境の形成に向けて、狭隘道路の解消や歩行者・自動車が快適に移動できる道路空間整備を推進する。 ・上記にあたっては、まちなかで増加している空き家・空き地対策と連携を図る。	・狭隘道路の解消(空き家対策と連携した拡幅など) ・高浜町空き家等対策計画に基づく各種対策(予防、活用・流通、適正管理、管理不全空き家等の解消、路地活用)の推進
	地域資源を活かした観光振興	・国際環境認証「ブルーフラッグ」の認証を受けた美しい海岸環境を維持する。	・ブルーフラッグの環境保全

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	子育て環境の充実	・子育て世代がまちなかで安心して暮らせるよう、保育などの子育てサービスを充実する。	・子育て施設の機能強化
	地域住民等の日常生活的な生活・交流を支える都市基盤の充実	・まちなかの住環境に潤いを与えとともに、地域住民等の日常生活的な休息や交流の場として活用できる公園整備を進める。	・(仮称)和田公園の整備 ・町道牧線の高質化(公園へのアクセス路)
	地域資源を活かした観光振興	・ブルーフラッグの認証を受けた美しい海岸環境や旧丹後街道沿いを中心に残る伝統的な町並みなどを活かし、まちなかの魅力や活力を創出する。	・ブルーフラッグ周辺の拠点性を高める店舗等の誘致 ・海辺と調和した街並み景観づくり ・海沿いの景観を活かした歩行者・自転車空間の整備 ・空き家や空き民宿の活用(ゲストハウスなど)

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・特になし
-------

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
											予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区内人口	人	1,427	H29	1,388	R5	確定		1,280	×	あり	令和6年4月	住民基本台帳人口(日本人)を用い、従前値と同様の条件で計画区域内の人口を計測する。	-
						見込み ●				なし ●				
指標2	-						確定				あり			
							見込み				なし			
指標3	-						確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1	-			H			確定							
							見込み							
その他の数値指標2	-			H			確定							
							見込み							
その他の数値指標3	-			H			確定							
							見込み							

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・特になし	・令和2年以降、「観光客数」の推移は回復傾向にあるため、引き続き、ブルーフラッグなどの地域資源を活かした観光振興に取り組んでいく。
	うまくいかなかった点	・指標2「観光客数」について、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響など予期せぬ外的な要因により、目標を達成することができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・特になし	・第3期計画以降も継続して観測する。
	うまくいかなかった点	・地区内の主要な生活・防災道路である町道臨港線の改良や横断5号線の整備などの事業効果が「地区内人口」に反映までには一定の期間を要すると考えられ、思うような数値的な成果が得られなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・特になし	
	うまくいかなかった点	・特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・特になし	
	うまくいかなかった点	・特になし	
その他	うまくいった点	・特になし	
	うまくいかなかった点	・特になし	

### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定  
令和6年度より本地区(若狭和田地区(3期))の次期計画を実施する予定である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット					
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					
住民の意見					

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	野嶋慎二(福井大学 教授)	令和6年2月8日	高浜町建設整備課	高浜町都市計画審議会 条例	高浜町都市計画審議会
その他の委員	上尾徳郎、磯部武史、井上順也(以上 町議会議員) 田中康隆(有識者) 城口敏久(有識者) 田中博(小浜警察署 交通課長) 野坂博之(小浜土木事務所 所長) 山中紀子(住民代表) 魚住さとみ(住民代表)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・事業の効果が「地区内人口」に反映されるまでには一定の期間を要するため、第3期計画以降も継続して計測を進めて欲しい。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・評価委員会後に原案公表を行うことについて了承を得た。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・まちなかの道路(シンボルロード、町道)の整備は、地域住民や登下校時の安全性なども含めて引き続き進めて欲しい。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画

わかさわだちく  
若狭和田地区(2期)

ふくい たかはまちょう  
福井県 高浜町

平成31年1月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	高浜町	地区名	若狭和田地区(2期)	面積	52 ha
計画期間	平成 31 年度 ~ 平成 35 年度	交付期間	平成 31 年度 ~ 平成 35 年度				

<b>目標</b> <b>大目標：ブルーフラッグに代表される豊かな地域資源を活かした、生活文化拠点の形成</b> 目標1：安心・安全な居住環境の整備によるまちなか居住の推進 目標2：観光客への対応と地域資源を活かした賑わいや交流の創出
--

<b>目標設定の根拠</b> まちづくりの経緯及び現況 高浜町は福井県の最西端に位置し、若狭湾や青葉山等の美しい自然に囲まれながら、独自の歴史や伝統、生活、文化、地域産業が形成され、高浜らしいまちの魅力となっている。 本地区は、高浜町市街地の東部に位置し、海水浴場を中心とした夏季観光により戦後の民宿業を中心に発展してきた住宅地域である。また、近年では、地域住民や多様な主体による海水浴場の環境保全等の取組により、アジア初・国内初となる「ブルーフラッグ認証」を受けたことにより、国内だけではなく世界からも注目されており、観光入込客数は増加傾向にあるなど、今後さらに拡大する観光客への対応が求められる。 また、和田地区のまちなかにおいては、人口減少、少子高齢化に伴い、空き家・空き店舗・空き民宿・空き地等のまちの空洞化や地場産業の衰退化により、まちの活力の低下が深刻な問題となっており、居住環境の整備によるまちなか居住の推進やにぎわいを創出するための交流拠点づくりが求められる。  ※参考 観光入込客数 H26（認証前）：11.4万人 H29（認証後）：12.7万人
--

<b>課題</b> ・まちなかの人口減少や少子高齢化の更なる進展が予想されるため、まちなか居住の推進に向けてくらしやすい居住環境の形成が必要。 ・夏季の海水浴シーズンに伴う大型バス等の自動車交通の渋滞の緩和、歩行者通行の安全性の確保が必要。 ・アジア初・国内初となる「ブルーフラッグ認証」の影響による国内外からの観光客に対応するための環境整備が必要。 ・衰退しつつある海浜資源を活かした観光やまちなかのコミュニティの維持・活性化を図るための交流の場が必要。
--

<b>将来ビジョン(中長期)</b> ①高浜町総合計画（平成23年3月策定） ○町の将来像：美しい自然を舞台に、一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町 ○基本目標：①誰もが安心して暮らせるまち、②いきいきと働くことができるまち、③安全・快適で住みやすいまち、④豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち、⑤学びあい・教えあい、そして、人を育むまち ○基本戦略：①コンパクトシティ戦略、②閃きまちづくり戦略、③地域医療システム構築戦略、④環境貢献戦略、⑤原子力共生戦略 ②高浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定、平成29年1月改訂） ○スローガン：高浜に住もう ～仲間がいる高浜に戻ろう！海のみち高浜で暮らそう！～ ○重点プロジェクトの一つに「海のある高浜暮らしプロジェクト」を掲げ、具体的施策に空き家活用、宅地分譲、実家リフォーム整備、快適インフラ整備、憩いの場整備を位置づけている。 ③高浜町都市計画マスタープラン（平成24年3月策定） ○都市づくりの目標：海辺の暮らしから“継” ～ひと・暮らし・自然・産業が結び付き文化をつなぐ持続可能な風景都市～ ○都市づくりの基本方針：①人にやさしく安心して暮らせる都市づくり、②豊かな自然や風景を守り・育む都市づくり、③多様な機能が連携する複合的な都市づくり、④効率的で環境負荷の小さい都市づくり ○和田地区は「生活文化拠点」に位置付けられ、以下の考え方が示されている。 ・地域の特徴である伝統的な町並みや昔ながらの路地空間などを地域の宝として保全しつつ、安全で快適に暮らせるための都市基盤の整備の推進 ・海水浴場・民宿・町並み・路地空間・和田港などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、住民相互や来訪者との交流などを通じ、地域の魅力や活力の創出 ④高浜町立地適正化計画（平成31年3月策定予定） ○都市づくりの目標及び基本方針⇒都市計画マスタープランと同様 ○本地区（生活文化拠点）の誘導方針 ・都市機能：生活利便性を維持・向上し、高浜町の中心市街地としての顔づくりを進めるため、必要な都市機能を維持・誘導する。 ・居住：市街地の拡大を抑制し、高浜町総合戦略との整合を図りながら、人口流出の抑制、移住や住み替えの促進、空き家の利活用等を図り、コミュニティを持続する。
---

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	従前値	目標年度
地区内人口	人	計画地区内の住民基本台帳人口	安全安心な居住環境の創出により、住宅市街地としての価値を高め、人口密度の維持を図る(立地適正化計画の目標値に準ずる)。	1,344	1,308	29年度	35年度
観光客数	人	和田海水浴場客数(夏季)	案内板情報の多言語化や交流の場の整備により、誘客効果を高め、地区内及び地区隣接地の観光客を増加させる(立地適正化計画の目標値に準ずる)。	140,900	148,800	30年度	35年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>1. 安心・安全な居住環境の整備によるまちなか居住の推進</b> まちなか居住の推進に向けて、歩いて暮らせる安心安全な居住環境の創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町道臨港線の改良により、大型車両の円滑な通行や歩行者の安全性を確保する。また、カラー舗装、照明施設の整備を実施し、日常生活の円滑な通行や景観の調和、大規模地震時の電柱の倒壊を防ぐ。</li> <li>・まちなか広場の整備、管理カメラの設置により、安心・安全で快適な居住環境を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道臨港線（和田駅前線）整備事業【基幹/道路】</li> <li>・和田海浜広場整備事業【基幹/地域生活基盤施設/緑地、広場】</li> <li>・管理カメラ設置事業【提案/地域創造支援事業】</li> </ul>
<p><b>2. 観光客への対応と地域資源を活かした賑わいや交流の創出</b> 賑わいや交流の創出に向けて、国内外からの観光客への対応、海浜資源を活かした観光やまちなかのコミュニティの維持・活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際環境認証「ブルーフラッグ」取得により増加傾向にある国内外からの観光客等へ対応するために、案内板の情報を多言語化する。</li> <li>・交流人口の更なる増加に向けて、若狭和田海水浴場と一体となった広場の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和田海浜広場整備事業【基幹/地域生活基盤施設/緑地、広場】 再掲</li> <li>・観光案内板（多言語型）設置事業【基幹/地域生活基盤施設/情報板】</li> </ul>
<p>その他</p> <p>○計画期間中の計画の管理について</p> <p>・計画期間内において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な成果をあげるため、学識経験者や各種団体代表者、関係機関、町民等により構成する高浜町都市計画マスタープラン戦略会議において、その他関連する取り組みも含めた総合的な計画・進捗管理を行う。</p>	



都市再生整備計画の区域

若狭高浜地区(2期)(福井県高浜町)	面積	52 ha	区域	大字和田の一部
--------------------	----	-------	----	---------

